

北海道青年海外 派遣事業 2024 報告書



公益社団法人

北海道国際交流・協力総合センター

海外派遣事業報告書 2024

ベトナム・タイ

1 趣旨

北海道では、第1次産業や観光業を中心とした深刻な人材不足に対応するため、外国人労働力の受入れや、外国人留学生など高度人材の受入・地域への定着促進に向けた取組が着目されているところである。

北海道とタイでは2012年にバンコクー新千歳空港間の直行便が就航、2013年にはチェンマイとの友好提携が提携され、現在では労働者・留学生ともに多くの人材が北海道を訪れている状況となっている。

またベトナムとの間では2017年にベトナム計画投資省と「経済交流に関する覚書」が締結され、人材交流が活発化しており、技能実習生・特定技能を中心に多くの人材が地域に暮らしている。

このような状況のもと、HIECCでは本道の企業や大学などで活躍する人材をタイ及びベトナムに派遣し、関係機関の訪問や関係者との意見交換などを通じて、今後の両地域における経済人材交流の可能性に向けて情報を収集するとともに、異文化や国際交流等に対する理解を深め、国際的な視点に立って地域づくりを進める人材を養成し、地域の国際化の促進に資する。

2 派遣内容

- ・日程:令和6年11月10日(日)～11月17日(日) 8日間
- ・派遣先:ベトナム(ハノイ)、タイ(バンコク)
- ・派遣人数:5名

※道内企業や団体、法人等に所属する社会人などで所属機関の推薦を得ているもの。

3 研修内容

- (1) 経済交流・支援状況理解(JETRO、JICA など)
- (2) 関係機関視察、意見交換(道進出企業、ビジネス協力員)
- (3) 人材交流関係機関視察(政府系人材開発機関、送り出し機関、日本語学校など)
- (4) 現地大学生との交流

4 参加負担金

17万2千円

5 旅行主催

株式会社エイチ・アイ・エス

スケジュール

日次	月日・曜日	都市名	時 間	交通機関	内 容	宿泊地
1	11月10日 (日)	集合 新千歳空港 ハノイ	8:00 10:00 15:50 17:30 19:20	TG671 TG564 専用車	新千歳空港国際線ターミナル 新千歳空港発 バンコク着 乗り継ぎ ハノイ着 ホテルへ移動	ハノイ (ホンハホテル)
2	11月11日 (月)	ハノイ	9:15 9:30 11:15 14:05 17:20	専用車 ↓	ホテル発 JETRO 訪問 (～10:45) 三井住友銀行ハノイ支店訪問 企業訪問 (ニトリファニチャー) 水上人形劇鑑賞	〃
3	11月12日 (火)	ハノイ	7:30 9:00 12:00 13:30 15:30 18:00 21:00	専用車 ↓	ホテル発 人材送出機関、日本語学校 VJCC 訪問 JICA 訪問 日越大学訪問 (Hoa lac キャンパス) 夕食交流会 ホテル着	〃
4	11月13日 (水)	ハノイ ハノイ空港 →バンコク空港	午前 13:00 15:55 17:55	VN619 専用車	自由行動 ホテル集合 →空港へ ハノイ発 バンコク着 ホテルへ移動	バンコク (アンバサダー ホテル)
5	11月14日 (木)	バンコク	8:15 9:00 11:00 12:00 14:30 21:00	専用車 ↓	ホテル発 JETRO 訪問 (～10:15) 北洋銀行バンコク事務所訪問 どさんこプラザ視察 (高島屋) 企業訪問 (フォーチュンクロスタイランド) ホテル着	〃
6	11月15日 (金)	バンコク	7:30 午前 15:00 17:30	専用車	ホテル発 水上マーケット見学 シーナカリンウィロート大学訪問 (学生交流、ナイトマーケット) ホテル着	〃
7	11月16日 (土)	バンコク バンコク空港	午前 午後 18:00 23:55	専用車 TG670	自由行動 ホテル集合 →空港へ	機 内
8	11月17日 (日)	→新千歳空港	8:20		新千歳空港着、解散	

海外派遣研修団員名簿

(五十音順)

(団 員)

	氏 名	職 業	勤務先／役職
1	いたがき りおん 板垣 凜音	会社員	日興美装工業（株） JICA 札幌フロント業務
2	おおさか あきよ 大坂 晃代	会社員	(株) H B A 自治体ソリューション本部 エキスパート
3	きたむら まこと 北村 誠	会社員	(株) セラビ 課長
4	すみ こうへい 角 航兵	会社役員	(株) テンズホーム 代表取締役
5	ほんま ななこ 本間 七虹	教 員	北海道登別青嶺高校 英語教諭

(事務局)

	氏 名	職 業	勤務先／役職
	かねこ のりゆき 金子 徳之	団体職員	北海道国際交流・協力総合センター 管理チーム参事

実施内容

○ハノイ（ベトナム）

JETRO ベトナム訪問（11/11 9:30～10:45）

小林次長より、ベトナムの経済概況と日系企業の進出動向についてお話を伺った。2024年ベトナムの一人あたり GDP は 4,636 ドル（日本の 1/7 程度）であるが、スマホなど電子機器の輸出が好調で、直近では年間 7.4% の経済成長率となっている。貿易相手国は輸出、輸入とも中国が最大となっており、トランプ政権による米中貿易摩擦の影響により、今後も中国企業の進出が加速し、経済に好影響がもたらされることが期待されるとのこと。日本からの投資は製造業と飲食が上位を占めているとのことであった。



三井住友銀行ハノイ支店訪問（11/11 11:15～12:15）

大川副支店長と鍋嶋グループ長より、銀行の業務内容についてお話をいただいた。1994年にホーチミン、2008年にハノイに支店を開設しており、2024年現在で303名の従業員となっている（うちベトナム人スタッフ8割程度）。2024年5月現在で、ベトナムへの日系企業進出数は2,036社（日本商工会登録）となっており、基本的には企業の進出支援、貸し付けなどを行っているが、ベトナム VPBank と業務提携し、消費拡大が見込まれている中間所得層にも対象を拡大する方向とのこと。



ニトリファニチャー訪問（11/11 14:05～16:00）

ハノイ市街から南東に 20km ほど離れた、クアンミン工業団地最大の工場で、4万 8,000 坪を超える広大な敷地にある同社を訪問。岡本社長より、会社概要について説明をいただいた。ニトリの自社工場としては、ベトナムに 2カ所、タイにカーペット工場があり、本工場には約 5,000 人の現地従業員が働いており、女性従業員が約 90% を占めているとのこと。5時 30 分から 21 時 40 分までの 2 勤交代制で交代時には工場前には長蛇の列ができるとのこと。

高澤氏からは同社の人材管理について説明をいただいた。同社では帽子の色分けで各スタッフに明確な役割を与えて、働きやすい環境を提供していることで離職率はわずか数%とのこと。

工場見学では、広い工場内をカートに乗って移動しながら、製造工程を見学させていただき、リードタイム短縮のための取り組みや人材管理の様子など説明をいただいた。



VINAMEX ヒューマンリソース社訪問 (1/12 9:00~11:30)

日本語学校（兼送り出し機関）である同社を訪問。グエン・ハ・トゥ副総裁より同社の取り組みについてお話をいただくとともに、実際の日本語教育の現場を視察した。同社では企業からのニーズに合わせて語学（N5 レベル）や職業訓練を行っており、設立以来 20 年間で約 3,000 人を送り出し、日本が一番多く 2,000 人となっている。ただし、コロナ以降は金銭面の理由などから日本から中国へ人気が移行してきているとのこと。日本の需要としては、食品加工や農業分野が人気とのことであった。



ベトナム日本人材開発インスティテュート (VJCC) 訪問 (1/12 12:00~12:30)

日本とベトナムの両国政府合意のもと、JICA と外国貿易大学が協力し設立された国際人材育成機関。米田 JICA 専門家より、同協会の取り組みについて話をいただいた。同協会では日本式の経営を学ぶ「経営塾」を開講、人事・生産管理に精通した経営者を養成し、人脈や国内外の企業とのパートナーシップ構築を行っているとのこと。



JICA ベトナム事務所訪問 (1/12 13:30~14:30)

西川アドバイザーより、ベトナム ODA の概要などについて説明をいただいた。ベトナムでは、一人あたり GDP は 2005 年の約 700 ドルから、2022 年には約 4,164 ドルへ約 6 倍増加し、中所得国と位置づけられている。日本に派遣される技能実習生は 2019 年には年間 10 万人ほどであったが、2023 年には 8 万人、2024 年には 6 万人と減少しており、代わりに中国が増えているとのこと。要因としては、円安による金銭面や、言語（中国語はベトナム語と発音が似ているとのこと）、また実習生が業種を選ぶようになったことなどが挙げられる。JICA では、VJCC や日越大学の支援を通じて、IT など高度人材の育成にも力をいれるようになってきているとのことであった。



日越大学訪問 (1/12 15:30~17:30)

ハノイ市街地から 30km ほど離れたホアラックハイテク工業団地内に位置する日越大学を訪問。Minh Duc 先生と辻本専門家より、大学の概要について紹介をいただいた。同大学は、日本の支援により、ベトナム国家大学ハノイ校に属する 7 番目の大学として 2014 年に設立。2017 年に修士課程を開設し、東京大学はじめ日本の大学がカリキュラム作成や教員派遣で協力しているとのこと。キャンパスツアーでは、現在建設中の各研究ラボや学生寮などを見学した。将来的にハノイ市内（ミーディン地区）にあるサテライトキャンパスと統合し、6000 人規模の学生を受け入れる総合大学庁舎を完成する予定とのことであった。また、学生 5 名に参加していただき、当方団員からの北海道紹介プレゼンを聴講いただき、学生と一緒に夕食交流会も行った。



○バンコク（タイ）

JETRO タイ訪問（11/14 9:00～10:15）

高谷アドバイザーより、タイの経済概況と日系企業の進出動向についてお話を伺った。2023年タイの一人あたり GDP は 7,337 ドル（日本の 1/5 程度）、ASEAN 域内では、シンガポール、ブルネイ、マレーシアに次いで第 4 位で、直近では年間 2.3% の経済成長率となっている。

日本への観光客数が国別で第 6 位と多くの観光客が日本へ訪れていることから親日的な国民性。JETRO 調査による 2013 年 3 月時点の日系企業は 5,856 社（3 年前と比べて 412 社増）で、非製造業の進出が多くなってきているとのことであった。



北洋銀行バンコク事務所訪問（11/14 11:00～11:30）

平田所長より、同社の事業内容について説明をいただいた。北洋銀行では 2 カ所の海外事務所を設置（バンコク、上海）しており、海外事務所では、営業行為は行っておらず、現地情報収集・提供やマーケティング支援を行っているとのこと。タイでは以前は自動車など製造業の製造拠点として多くの企業が進出していたが、タイ国内の自動車ローンの審査厳格化や、中国の EV 車の攻勢により、以前ほど日本の自動車が売れない一方で、日本食レストランの増加が著しい状況とのことであった。



どさんこプラザ視察（11/14 12:00～12:30）

バンコク最大級の複合施設「ICON SIAM（アイコンサイアム）」内にある北海道のアンテナショップ「どさんこプラザ」を視察。食品や土産品など道産品が販売されており、富裕層向けに高価な品揃えも多く、自治体のアンテナショップとしてはトップクラスの売り上げとのこと。



フォーチュンクロスタイランド社訪問（11/14 14:30～16:30）

道内からの進出企業訪問として、バンコク市街から40kmほど離れたサムットプラカーン県にある、フォーチュンクロスタイランド社を訪問。原社長よりお話をいただいた。同社はパワーウインドウやスライドドアなどに使用される自動車用モーターシャフト等を製造しており、日系企業を中心に各国に部品を提供しているとのこと。社員は540名でうちタイ人400名、ミャンマー人140名となっており、ミャンマー人は勤勉な社員が多いことから採用を増やしているとのこと。工場見学では部品の製造・テスト工程や、社員が働く様子など紹介いただいた。スワンナプーム空港近くに工場や倉庫を構えることで輸送コストの削減にもなっているとのこと。



シーナカリンウィロート訪問（11/15 15:00～17:00）

同大学の日本語学科の授業に参加させていただき、交流を行った。団員から北海道紹介プレゼンを行った後、学生から「教育制度」「都会と田舎の違い」「食べ物」などのテーマでタイについて日本語で紹介をいただいた。質疑応答では多くの質問があり大いに盛り上がった。

また、当日、タイでは年に1度のロイカトーン祭りの日ということで、大学構内にマーケットや遊具が設置され多くの市民で賑わっていた。学生に案内していただき一緒に屋台で買い物したり構内を散策し、祭りの雰囲気も楽しんだ。



Vietnam-Japan-Thailand

板垣 凜音

今回の海外派遣事業では、実際に現地の日系企業や大学へ訪問し、さまざまな歴史や文化、社会情勢を学ぶことができました。主に、私が驚き理解を深めることができた項目をベトナム、タイ、日本の三国で比較していきます。

・社会情勢

ベトナムは、愛知県の2倍ほどの大きさで、今年人口も1億人を突破した着実に経済成長が進んでいる国です。また、街を見渡していると一目でバイク社会だということが分かります。自動車を持つには2つの税金を払う必要があり駐車場も少ないので、自動車を持つ割合が100世帯につき5,6台と少なく、皆移動にはバイクを使用しています。さらに、ベトナムでは韓国企業が多く進出しており、LOTTEのデパートやホテルもあります。コンビニでも、韓国製のお菓子や飲み物が多く売られている印象でした。

タイの国土面積は日本の約1.4倍あり、人口6,605万人の王国です。さらに日本と同じく少子高齢化が進んでおり、現在の出生率は1.3。そのため、主な対策として技術開発や定年を55歳から65~70歳へ延長することなどが検討されています。

日本も少子高齢化や円安など大きな課題が山積みです。その国にはその国の解決すべき課題が沢山あるということを改めて実感しました。世界中の一人一人が今より満足できるような生活を送るために、より早く課題を解決していかなければいけないと感じました。

・働くことについて

まず、ベトナム人は、とても働き者が多いということをいくつかの研修先で知りました。見学したニトリの工場では、全員が真面目に黙々と作業を行っていて少し驚きました。人材送り出し機関では、学生の中では食品加工が特に人気のある職種だと学びました。理由は、屋内で働くことができ安定している職業だからです。日本の夏は暑く、冬は寒さも厳しいので屋内で働きたいと思うのは当然だと考えました。しかし、コロナ明け、日本で働く人気は下がっています。英語を学びたい人が増えたり、高い給料を求め職種を選ぶようになったからです。今後の日本には、よりよい外国人の受け入れ体制を整え呼び込むことが大きな課題であると考えました。

そして、私が強く印象に残っているのは、そこで出会った学生たちです。「おはようございます。」「よろしくお願いします。」「お疲れさまです。」と深くお辞儀をして元気よく挨拶をしてくれた学生たちの姿が鮮明



に思い出されます。日本で働くことへとても志が高く、皆笑顔が明るいという印象でした。ですが、実際に技能実習生や日本に働きに来た外国人の中には、過重労働やハラスメントに遭い、自国へ帰ってしまう人もいるというのが現状です。こんなにも日本が好きで、熱意を持って日本語を学び働きに来てくれる人々がいるにもかかわらず、そういった実態があることに、日本人として本当に申し訳なく、悲しい気持ちになりました。日本で働く外国人の支えや助けに私自身も少しでもなれるような活動をしたいと考えました。

タイでは、現在、5,856社の日系企業が進出しています。海外日系企業数世界第3位の数字です。街を歩いていても、日本で見慣れた居酒屋やコンビニがあったので驚きました。しかし、日本とは大きく異なり社会保障制度や年金制度がほぼなく、介護施設もありません。ですから、自分の親が介護が必要になると、仕事を辞め実家へ戻り親の世話をする人が多いのです。その結果、バンコクから地方へ行く若者が多く、バンコクは労働力不足となり空洞化する状況に陥っています。対策として、多くのミャンマー人を雇ったりという他国からの受入をタイでも行っています。さらに今年10月には、1日の最低賃金が一律400バーツ（日本円で約1600円）に引き上げられました。日本よりも物価が安いと聞くことが多いですが、近年タイも物価が高騰しており、買い物をする場面でも日本と同等くらいの物価が多いという印象でした。

そして日本人は、勤勉で真面目だという印象が日本人の私自身もありましたが、現在の日本は働き方改革が行われていることもあり、他国の方が働く意識が強いと感じました。

今後、国際協力を進めていく上で、互いの文化や価値観を理解し受け入れていくことを一人一人が大切にしてほしいです。そして、日本で働きたいと思う人が今よりも増え、現地に来て“やっぱり日本が好きだ”と感じてもらえるような、あたたかい環境が整うよう願っています。



・おわりに

この1週間は、自分の人生にとって財産となるような貴重な経験ができた日々でした。HIECCさま、現地関係者の皆さま、団員の皆さま、本当にありがとうございました。素敵な出会いに恵まれ、とても充実した滞在生活を送ることができました。そして、ベトナムとタイ、どちらも魅力的な国で大好きになりました！両国のさまざまな分野の知識を深め吸収することができました。この派遣経験を今後の人生に活かし、誰かの役に立てる人になれるよう努めていきたいです。

「ベトナム、タイ そして日本のギャップ」

大坂 晃代

・はじめに

今回、海外派遣事業に参加する前はベトナムとタイについて「発展途上国」という印象があった。しかし、現地を訪問するとスマートフォンが普及し、23 時過ぎまで街灯が輝いており、夜の街は賑わっていた。まさに、「百聞は一見にしかず」である。

・ベトナム

ベトナムに着いてまず驚いたのはバイクの多さである。バイク保有率は 77%にもおよぶとのことだ。日本に比べると信号が少なく車線の概念がない道路でクラクションをたくさん鳴らしている。ベトナムでバイクや車を運転することはとてもできないと感じた。

「JETRO」「三井住友銀行ハノイ支店」ではベトナムの経済概況と日本企業の動向についてご説明いただいた。

一般企業で働いている人の 8 割が女性だと聞いた。翌日、見学した「ニトリファーニチャー」や街の商店等を見ても実務を中心的に回しているのは圧倒的に女性が多い印象だ。では「男性が家事をしているのか」という疑問が生まれ、調べてみたところ、女性は週に平均 20.2 時間を家事や育児に費やしているのに対し、男性は平均 10.7 時間しか費やしていない。しかも男性の 20%近くは家事に一切時間を費やしていないそうだ。

ジェンダー・ギャップ指数における「専門・技術労働者」の項目は女性の割合が世界 1 位であるが、「議員・政府高官・管理職」は男性が 74%に対して、女性が 26%にとどまっている。これは先に述べたように家事や育児を主に女性が担っているため、職場における昇進や賃金よりも家庭に割く時間を優先する必要があることが原因であると言えるだろう。ベトナム人女性はほとんどの人が就労し、稼ぎを得ているにもかかわらず、その地位は男性より低い位置に置かれていると言える。

次に日本を見てみると「専門・技術労働者」も「議員・政府高官・管理職」も女性の割合は低いことが伺える。女性はその地位も、所得も、男性に大きく後れをとっており、これが女性の経済的な力を弱めることにつながっていると言えるだろう。

ベトナムでは改善したとはいっても、依然として男女の間に不平等が存在していること、さらに日本に至っては、世界的に経済力のある国とされながらも、ジェンダー・ギャップ指数が低い上、この順位が年々低下していることが指摘されている。



ベトナムと日本で違いはあるが、両国におけるこのような男女不平等の根本的な原因は、女性が果たすと期待される伝統的な役割に対する社会的な圧力であるとされており、根深い問題ではあると思うが、個人の意識や行動の変化が社会全体のジェンダー・ギャップ改善につながると信じ、行動する必要があると思う。

・タイ

タイに着き、車の窓から見える景色は17年前に訪れた時とは別の国のような光景だった。高層ビルが立ち並び、高速道路やBTS（バンコク・スカイトレイン）、MRT（地下鉄）等、交通インフラが整っている。東京と比較してもはるかに都会的と感じるバンコク中心部で、発展途上国の気配を感じ取ることは難しい。

その一方で、駅や公共の場で物乞いをして生計を立てている家族、または小さな子供が路上で物品を売っている姿を目にすることがあった。日本ではありえない貧富の格差がこの国にはあると感じた。



また、物価が安いといった印象も少なかった。「JETRO」でタイの一般情報と経済概況についてご説明いただき、賃金の引き上げや物価上昇率が加速していること、高齢化社会となってきていることを教えてもらった。

数年前まで日本企業がタイに進出するきっかけは「安定して安く製品を作る」ことであったが、物価や人件費の高騰により、もうタイはその選択肢ではなくなっている。これからタイも迎えるであろう成熟市場や高齢化社会で生き抜くための日本の豊富な経験値を活かした交流を行うことが両国の関係を一層深めるのではないかと思う。

・おわりに

今回、海外派遣事業に参加し、ベトナム・タイを見る目はもちろん変わったが、日本の良さを再認識したことも大きな収穫だった。愛国心も生まれ、世界の人々に日本の素晴らしさを知ってもらいたいと思った。

最後に、各訪問先で温かく迎えてくださった皆様、有意義かつ楽しい旅にしてくれた団長始め同行の皆様には心から感謝と御礼の意を表します。

東南アジアの経済と文化に触れる：ベトナム・タイ研修報告

北村 誠

2024年11月10日から17日の8日間、公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター主催の「令和6年度北海道青年海外派遣事業」に参加し、ベトナム・ハノイとタイ・バンコクを訪問しました。私自身、これまで海外に出たことがなく、国際情勢や知識も乏しい中で参加でしたが、両国の経済や就労状況、文化を学び、貴重な経験を得ることができました。本報告書では、訪問で得た知見、感想を報告いたします。

・ベトナム・ハノイの視察

ハノイはベトナムの首都で、政治、文化、経済の中心として発展しています。ハノイの人口は約860万人で、ベトナムの総人口の約8.6%を占めており、平均年齢は約28.5歳と非常に若い人口構成を持っています。日本の平均年齢47.7歳と比較して、若年層が圧倒的に多いことが特徴的です。実際に、宿泊先のオフィス街で出勤時間に街を歩いた際、多くの若者たちがスーツや制服を着て、屋台やカフェで朝食を取りながら活気に満ちた会話をしている光景が印象的でした。

初日はJETROハノイ事務所、三井住友銀行ハノイ支店、ニトリファニチャーを訪問しました。これらの訪問を通じて、ベトナムの経済や産業、雇用状況について多くの情報を得ることができました。ベトナム経済は伝統的に農業中心でしたが、海外からの直接投資を受けて急速に製造業が成長しており、特に電子機器や衣料品、家具などが製造されています。また、日本で普及しているゲーム機の製造企業がベトナムに進出していることに驚きました。

午後には、ニトリファニチャーの製造現場を視察しました。広大な敷地に約5000人の労働者が働いており、特に女性労働者の割合が高いことが特徴でした。生産性の高さは、勤勉さや責任感に支えられているとのことでした。また、ベトナムでは家族や親族を大切にし、助け合う文化が根強く、女性が出産後も職場に早期に復帰できる環境が整っていることが分かりました。

VINAMEX ヒューマンリソース株式会社、VJCC、JICA、日越大学の訪問では、ベトナムの人材育成や日本への就労状況について学びました。特に、VINAMEX ヒューマンリソースでは日本への就労を希望する学生たちが日本語を学びながら熱心に質問をしている姿が印象的でした。東京、大阪、神奈川の首都圏が人気の就労先のため、北海道の美しい四季やグルメもアピールし、今後北海道が人気の就労先となることを期待しています。

・タイ・バンコクの視察

JETRO バンコク事務所、北洋銀行バンコク事務所、どさんこプラザ（高島屋）、フォーチュンクロスタイランドを訪問しました。JETROや北洋銀行では、タイの経済状況や日本企業

の進出状況について貴重な情報を得ることができました。タイは自動車産業やエレクトロニクス産業が盛んで、貿易インフラが整っており、貿易ハブとして注目されていることが分かりました。

フォーチュンクロスタイランドでは、精密金属シャフトの製造工場を見学しました。特に注目すべきは、高精度なカメラとマイクロウェーブセンサーを組み合わせた自社開発の自動選別機の導入です。この技術により、従来の目視検査から自動化が進み、精度と効率が大幅に向上しました。特にタイでは、近年人件費が高騰し、労働力不足が深刻化している中で、このような自動化技術は労働力不足の解消に大きな役割を果たすと感じました。

翌日は水上マーケットの視察を行い、タイ独特の商取引文化を体験しました。市場では価格が決まっておらず、店主と客が交渉して価格を決めるというユニークな商習慣がありました。私はタイガーバームを買う際に交渉を行い、水上マーケットの醍醐味を経験することができました。また、シーナカリンウィーロート大学を訪問し、学生たちが日本語や英語を活用して将来の進路について熱心に話してくれました。彼らはタイ国内で旅行代理店やツアーコンダクターとしてのキャリアを希望しており、夢に向かって積極的に学んでいる姿が印象的で、とても活力をもらいました。



・総括

今回の海外派遣事業を通じて、国際的な視野を広げることができ、異なる文化や経済、就労環境について深く理解することができました。日本国内の人材不足に備え、外国人就労者の雇用が進む中、コミュニケーションの重要性を改めて認識しました。今後、異文化間での円滑な連携を築くために、文化的な理解を深めるとともに、柔軟な対応力を養うことが求められると感じています。特に、共用言語の習得や異文化理解の重要性を再認識しました。これからも国際交流の機会があれば積極的に参加し、知識と経験をさらに深めていきたいと考えています。

最後に、この貴重な機会を提供していただいた HIECC の皆様、同行した団員の皆様、そして現地でご尽力いただいた皆様に、心より深く感謝申し上げます。



国際経済と文化交流を通じた視座の拡大

角 航兵

・最初の学び：ベトナム経済の可能性に触れて

令和6年度北海道青年海外派遣事業に参加し、最初の訪問地であるベトナム・ハノイでの研修がスタートしました。初日の研修では、ジェトロ（日本貿易振興機構）にて、ベトナム経済の概要やベトナムは現在、ASEAN 諸国の中でも特に注目されている国の一つであり、GDP 成長率は最近6~7%台を維持しています。アジア全体でもトップクラスです。

説明では、特に製造業とサービス業が経済の主軸であり、若年労働力が豊富なことが直接投資の増加を後押ししていることが挙げられました。日系をはじめ外資企業が広がっており、その背景には安定した政治基盤と魅力的な労働コストがあります。特に、衣料品や電化製品の製造拠点としてのポテンシャルが高く、これが経済成長を支えている一因となっております。

さらに、ベトナム政府は「社会経済発展戦略 2030」をしっかりと、インフラ整備やデジタル経済への移行を進めています。これにより日本企業も、より多くの分野で事業拡大のチャンスを見出しています。

日本企業がどのようにベトナム市場を捉えベトナムで事業を拡大しているのか、その方針や戦略を知ることができました。これにより、将来の日本経済の発展には、海外との連携が重要であることを再認識しました。私自身、事業拡大の可能性を探る視点で、この研修がとても刺激的なものでした。

・実践的な学び：ニトリファニチャー工場の訪問

続いて訪問したのは、株式会社ニトリファニチャーの家具工場です。この工場では、トヨタ生産方式（ソードタイム）を活用した効率的な生産が行われていました。ワーカーの多くが女性であり、男性よりも労働力や意欲が高いとされていました。

また、上層部の「コストを下げ、利益を増加させるのではなく、消費者により安い商品を届ける」という考え方が、現場でしっかりと浸透している様子が見て取れました。私たちが提供するや商品サービスも、どのようにコストを削減し、顧客により良い価値を提供できるかを考えるきっかけになりました。



・日本語学校での感動と危機感

次に訪れたのは、人材送り出し機関兼日本語学校です。ここでは、日本語や文化を一生懸命に学ぶ学生たちと直接触れ合う機会がありました。礼儀正しく、日本文化を深く理解しようと

する彼らの姿勢には感動を覚えました。中には「日本人よりも日本人らしい」と感じるほどの礼儀を身に付けた学生もおり、日本文化への興味と熱意を強く感じました。

しかし昨今の日本経済悪化が影響し、日本での労働への魅力が減少している現実が見えてきました。私は企業経営者として、この現状を打破するためにできることを考え、小さいながらも自分自身で日本の経済発展に貢献したいと決意しました。



・タイ・バンコクでの学生交流から得た刺激

次に訪れたタイ・バンコクでは、シーナカリンウィロート大学を訪問し、現地の学生たちと交流する貴重な機会を得ました。学生たちによるプレゼンテーションでは、北海道や日本とタイ文化を比較しながら、気候、食文化、伝統行事など、多角的な発表が行われました。

特に感動したのは、彼らの日本文化への深い理解と熱意です。「日系企業で働きたい」「日本文化をもっと学び、タイと日本の架け橋になりたい」と学生たちの語る姿勢、自分自身も日本と海外のつながりにおいてできることを深く考えさせられる瞬間でした。

また、学生とのディスカッションでは、文化や価値観の違いについて自由に意見交換が行われました。その中で、タイの学生たちが抱く「現代日本への課題感」にも触れることができました。日本の若者文化や働き方の硬直性についての鋭い指摘があり、海外から見た姿を再認識するシーンがありました。

さらに、彼らが語った夢や目標は非常に具体的で、自らの未来に対して前向きであることが印象でした。その力強さには心から感動しました。この交流から、私自身ももっと国際的な展望を広げたいという思いが強まりました。

・終わりに：感謝の気持ちを込めて

今回の北海道青年海外派遣事業を通じて、たくさんの学びと気づきを得ることができました。私の人生の時間の中で特に貴重な経験となりました。そして交流や現場視察から、日本の課題や自分自身の経営における方向性を見つめ直すきっかけになりました。

この貴重な機会を提供していただきました HIECC をはじめ、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。また、共に学び、刺激を与えていただきました参加団員の皆様にも深く感謝しています。この経験を糧に、今後さらに成長し、日本と海外をつなぐ一員として貢献していきたいと思えます。

「物事の見方を変えれば、見るものも変わる」

本間 七虹

・はじめに

今回の研修を通してさまざまなことを学んだが、本レポートでは「両国の就労事情」と「外国人と共働するうえで大切なこと」について焦点を当て、まとめていく。

・～両国の就労事情～ 両国の社会的課題から見た現状

少子高齢化が急速に進みつつある両国において、貧困・格差問題との関連が懸念されている。両国には、所得格差から生じる「貧富の差」が顕著に見られており、その要因の1つに地域間の「教育格差」が考えられるということを教えて頂いた。

教育格差が所得格差に影響を及ぼすことは、全世界に共通だ。よって、改めて教育は世界中の人々にとって、生きる上での根幹となる大切なものであると認識できたと同時に、教育本来の目的である“人格の形成”という原点に立ち返り、一教員として、広く社会のため、人々のために何ができるかを深く考える機会になった。

一方で、少子高齢化社会に対応できる、社会保障制度が不十分な現状も知った。その背景には、『「家族第一主義」という伝統的風潮から『要介護になれば、全て家庭内で身内が行う。他人任せにはしてはいけない』という思想が強く根付いていることが考えられる』というお話を伺った際には、日本との文化的な違いを強く感じた。

・外国人人材の受け入れ

かつては日本で就労を希望する若者が数多くいたものの、近年は円安などの影響から、“日本での就労を望まない若者が増えている”というお話を伺った。それゆえ、日本側にとっては、従来どおりの低廉な労働力を得ることが厳しくなっている現状を知った。

外国人が日本で就労する際には、「介護」、「製造」、「建設」などの職種が多いが、これらは、日本人にとって一般的に「学歴や特殊な資格が不要」、「低賃金で重労働」などといったマイナスイメージが多い。

「介護」に関してのイメージを日越の学生で比較すると、日本人は「介護＝大変な仕事」というイメージが強いものの、ベトナム人は大変というイメージは少なく、「介護＝とても安定した仕事」という認識が強いことがわかった。

語学教育センターに訪問中、ベトナム人の学生から「看護師と介護士の違いは何？」と質問を受けた。両職種の役割は、ともに「利用者（患者）の生活を支える」ことに違いはない。しかし、厳密に言うと、大きな違いは「専門的な医療行為を行えるかどうか」である。しかしながら、①海外では介護士がアシスタントナースなどと呼ばれていること、②病院と独立した介護施設という形態が存在していないこと、③病院で看護師が介護も行っていることなどから、両職種の違い

が明確に理解できていないのではないかと感じた。

それゆえ、就労後における職種のミスマッチを防ぐためにも、就労前のインターンシップ教育の実施なども積極的に行っていくことが、今後の外国人人材の受け入れにかかる課題の1つとして考えられる。

・～外国人と共働するうえで大切なこと～

外国人が日本で就労するにあたり、不安な点として、コミュニケーションがあげられていたが、これは外国人人材を国内外で受け入れる日本企業側にも共通している懸念事項である。

実際に多くの企業の方から「言葉の真意が伝わらないと、外国人と共存することが難しい」というお話を行く先々で伺った。

それゆえ、世界共通語である「英語」を、日本人側も最低限度、話せる必要があることを痛感した。

私は研修最終日の自由時間中、尊敬する駐在員の先輩と会っていた。先輩からも色々なお話を伺い、外国人と働くうえでの大切なことを教えて頂き、①「業に入っては郷に従え」という言葉のように、日本人がタイに来たら外国人になるから、彼ら（タイ人）の文化や気質を理解して合わせていく努力をしなければならないこと。②どここの国に行き、何をするにしても、0ベースで物事をスタートしては何も身につかない。ある程度の知識基盤を作りあげたうえで現地へ行き、行動しなければならないということを学んだ。

このことは、人材を送り出す側だけではなく、受け入れる側にも共通していることであり、グローバルな環境で働くうえで最も大切なことだと感じた。

・おわりに

今回の研修で、さまざまな人と出会い、出会いの数だけ、新たな気づきと学びがあった。「会う人、出会うもの、すべて我が師なり。」このマインドを常に持ち続け、今置かれている狭い世界の現状だけで満足するのではなく、物事の見方を変え、広く他の世界にも目を向け、自分になりものを日々吸収し、学び続けていくことが大切だと感じた。

また、日々の職務にあたっては、今回の研修で学んだことを大切に、「生徒からも学び、自分自身も成長する」という意識のもと、社会のため、人のために貢献できるような人になれるよう、日々精進していきたい。

最後に、今回の研修でお世話になった全ての方々へ、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。



行 動 記 録

日付	発着・滞在地	交通機関	時間	内 容
11/10 (日)	新千歳空港 新千歳空港→ スワンナプーム国際空港 スワンナプーム国際空港 →ノイバイ国際空港 (ハノイ)	TG671 TG564 専用車	8:00 10:00 15:50 17:30 19:20 21:00 21:30 23:00	新千歳空港 国際線ターミナルに集合。 バンコク・スワンナプーム国際空港へ向け離陸。 スワンナプーム国際空港に到着 (時差-2h)、搭乗口を移動し、ベトナム・ハノイ行き出発時間まで待機 ハノイに向け出発 ノイバイ国際空港へ到着。 現地ガイドと合流。空港内で両替。 専用車にてホテルに向かう。北海道との気温差にて南国に来たことを実感する。車中、ガイドより、国際線ターミナルや、空港と市内を結ぶ橋は日本の支援により整備されたことなど説明を受ける。また、車窓より、バイクの多さに驚く。 ホンハホテルに到着。 安着祝いを兼ねて、ホテル周辺を散策しながら、レストランに飛び入りで入店。地元のシーフードレストランらしく、メニューには見たこともない料理ばかり。蒸し貝やエビの春雨炒めなどなるべく体に優しいようなものを注文し旅の疲れを癒やす。 ホテル周辺のコンビニで買い物を済ませ、就寝。
11/11 (月)	ハノイ	専用車	9:15 9:30 11:15 12:30 13:15 14:05	ホテルロビー集合、出発 JETRO ハノイ事務所に到着。 小林次長より、ベトナムの経済状況についてレクチャーを受ける。質疑が盛り上がり予定より 15分ほど遅れて 10:45 頃終了。 三井住友銀行ハノイ支店に到着。ハノイ最大規模の商業施設であるロッセセンター内にあることもあり、入館には厳重なセキュリティーが施されていた。大川副支店長と鍋嶋グループ長より企業への支援などについてレクチャーを受ける。12:15 頃終了 ベトナム料理レストランにて昼食。 道内からの進出企業訪問として、ハノイ市街から南東に 20km ほど離れたクアンミン工業団地にあるニトリファニチャーに向け出発。 渋滞により、予定より 5分ほど遅れて到着 岡村社長と高澤氏より会社概要などについてレク

			17:20	チャーを受けた後、4万8,000坪の広大な敷地にある工場内をカートに乗って見学。きびきび作業する女性従業員の姿に感動する(5,000人の従業員のうち90%以上が女性とのこと)。16:00 終了
			18:30	ハノイ市内に戻り、タンロン水上人形劇を見学。ベトナム民族楽器の生演奏にあわせて水の上で人形が動き回る劇を観ながらベトナムの歴史を学ぶ。18:10 終了
			20:00	ベトナム料理レストランで夕食。ハノイとバンコク両地域の大学で実施する、北海道紹介プレゼンの担当決めを行う。 ホテル到着。
11/12 (火)	ハノイ	専用車	7:30	ホテルロビー集合。
			7:45	VJCC に到着。米田アドバイザーとラム・ティ・トゥ・ヒエン氏が同乗し、ハノイ市街から15kmほど離れたところにある、日本語学校のVINAMEX ヒューマンリソース社に向けて移動。車中、ヒエン氏よりハノイの町並みを紹介いただく。ハノイでは中国企業の建設により2021年に最初の都市鉄道が開通し、今年8月に2路線目が開通、27年までに10路線の開通を目指しているが、相次ぐ工期の延期や建設費の高騰、駅の立地が遠いなど課題も多いとのこと。 また、ベトナムではユニクロは工場のイメージが強いが、昨年、ハノイでも店舗をオープンし、ファッション性が優れているという理由から若者にとっても人気があるとのこと。
			8:50	VINAMEX ヒューマンリソース社に到着。到着早々に生徒から熱烈的な歓迎をいただく。グエン・ハ・トゥ副総裁などから日本語学校の説明などをいただいたあと、日本語学習の授業に参加。生徒のひたむきに頑張っている姿を見て感動する。最後に我々のためにYOSAKOIソーランも披露いただいた。11:30 終了
			11:30	予定より30分ほど遅れて出発となったため、VJCC 米田アドバイザーより、車内にて VJCC の概要について説明をいただく。
			12:00	米田アドバイザーより、VJCC の施設や母体となっているベトナム貿易大学キャンパスを案内いただ

			12:30 13:30 14:30 15:30 18:00 21:00	<p>く。</p> <p>ベトナム料理レストランにて昼食。</p> <p>JICA ベトナム事務所を訪問。西川アドバイザーより、JICA の取り組みについてレクチャーをいただく。</p> <p>ハノイ市街地から 30km ほど離れたホアラックハイテク工業団地内にある日越大学に向けて出発。</p> <p>日越大学到着。Minh Duc 先生と辻本専門家より大学概要の説明とキャンパスツアーをいただく。その後、学生 5 名が参加し、団員から北海道紹介プレゼンを行い、質疑など行う。</p> <p>大学近くのベトナム料理レストランで、日越大学の方々と夕食交流会。日本語を話せる学生も多く、両地域の流行や文化の話題などで大いに盛り上がる。</p> <p>20:00 終了</p> <p>21:00 ホテル着</p>
11/13 (水)	ハノイ バンコク	専用車	午前 13:00 14:00 15:55 17:55 20:00 21:30	<p>フライト時刻まで自由行動。ハノイ大教会散策やショッピングなど 3 グループにわかれて市内を散策。</p> <p>ホテルロビー集合。空港へ向け出発</p> <p>ノイバイ国際空港着。搭乗チェックイン</p> <p>バンコクへ向け出発</p> <p>スワンナプーム国際空港に到着（時差なし） 現地ガイドと合流、空港内にて両替。 車中ガイドよりバンコクについて紹介をいただく。 車窓から、日本食レストランの多さや、きらびやかなネオンなど都会的な風景に驚く。</p> <p>20:00 タイ料理レストランにて夕食。</p> <p>21:30 アンバサダーホテルに到着。</p>
11/14 (木)	バンコク	専用車	8:15 9:00 11:00 12:00	<p>ホテルロビー集合。</p> <p>北海道庁から出向している平田氏と合流し、JETRO バンコク事務所を訪問。高谷アドバイザーよりバンコクの経済事情などについてレクチャーをいただく。予定より 15 分ほど遅れて 10:15 終了</p> <p>11:00 北洋銀行バンコク事務所を訪問。平田所長と道内企業のタイ進出の展望など意見交換を行う。 11:30 終了</p> <p>12:00 北海道庁の平田氏に案内をいただき、大型商業施設</p>

			<p>12:30 ICONSIAM 高島屋内にある、北海道のアンテナショップである「どさんこプラザ」を視察。シャインマスカットが一房 5,000 バーツ (約 22,000 円) で売られており驚愕する。</p> <p>13:15 ICONSIAM 内にあるタイ料理レストランで平田氏とともに昼食</p> <p>14:30 道内からの進出企業訪問として、バンコク市街から南東に 40km ほど離れたサムットプラカーン県にある、フォーチュンクロスタイランドを訪問するため出発。</p> <p>18:00 フォーチュンクロスタイランド到着。原社長から会社概要の説明を受けた後、工場を見学させていただく。その後、フルーツをいただきながら歓談。予定より 30 分ほど遅れて 16:30 頃終了。</p> <p>21:00 テーブルバイキングレストランにて夕食 途中雨が降ったり、渋滞に巻き込まれたため、1 時間ほどかかりホテル到着。(歩いたら 15 分ほどで帰れたとのこと)</p>
11/15 (金)	バンコク	専用車	<p>7:30 ホテルロビー集合。</p> <p>9:30 ダムヌンサドゥアック水上マーケットに向け出発 水上マーケットに到着。ボートに乗り換え、水上からバナナや椰子の木など眺めながら市場に到着。以前は売り子がボートに乗ってきて船上で買い物をしていたが、コロナ以降、行っていないとのこと。ガイドさんがごちそうしてくれたバナナを食べたり、にぎやかな市場内を散策。</p> <p>11:00 水上マーケット出発。</p> <p>13:00 バンコク市内ホテルにあるブッフェレストランにて昼食。</p> <p>14:00 シーナカリンウィロート大学に向けて出発。</p> <p>15:00 大学到着。団員から北海道紹介のプレゼンをした後、タイの 8 名の学生から、タイ文化や学校生活についてプレゼンをいただき、大いに盛り上がる。当日は年に 1 度のロイカトーン祭りの日で、大学構内にマーケットや遊具などが設置されていた。学生に案内していただき、一緒に買い物するなど祭りの雰囲気を楽しむ。17:00 終了</p> <p>17:30 ホテル到着。 コリアンタウンにある韓国レストランにて夕食。</p>

11/16 (土)	バンコク スワンナプーム国際空港	TG670	午前 18:00 19:00 20:30 21:00 23:55	<p>フライト時間まで自由行動。 アユタヤ観光や知人訪問などグループに分かれて市内散策。</p> <p>18:00 ホテルロビー集合</p> <p>19:00 スワンナプーム国際空港近くにあるタイ料理レストランにて最後の晚餐。8日間の感想を語りあう。レストランを出発</p> <p>20:30 スワンナプーム国際空港に到着</p> <p>21:00 搭乗チェックイン。手荷物預かりの際、なぜか団員全員のスーツケースが重量オーバーと言われる。再度受付カウンターで測り直したところ、制限内に収まっており一同安心する(機械の故障だったかと思われる)。</p> <p>23:55 新千歳空港へ向け離陸。</p>
11/17 (日)	→新千歳空港		(日本時間) 8:20	<p>新千歳空港に到着 (時差+2h)</p> <p>空港内にて解散式</p>



公益社団法人
北海道国際交流・協力総合センター
HIECC/ハイエック

Hokkaido International Exchange and Cooperation Center
Hokkaido Government Annex West-7, North-3, Chuo-ku
Sapporo, Hokkaido, 060-0003 JAPAN
PHONE: +81 (11) 221-7840 FAX: +81 (11) 221-7845
〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目(道庁別館12階)
TEL: 011-221-7840 FAX: 011-221-7845
URL: <http://www.hiecc.or.jp>
E-mail: hiecc@hiecc.or.jp